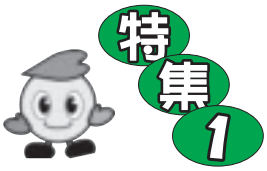
なすしおばら

社協だより

平成28年10月20日発行
第60号

9月24日(土)、那珂川河畔公園にて「第36回ふれあい広場」が開催されました。今回初の試みとなる「アルパカとのふれあいコーナー」や「スタンプラリー」、「参加団体同士のコラボレーション企画」など、多くの来場者に楽しんでいただきました。また、じゃんけん列車ゲームや盆踊り、ナスライガーショーなどを通して会場が一つとなりました。

市内の音訳ボランティアのみなさまの協力を得て、目の不自由な人のために音訳版社協だよりを発行しています。
詳しくは社協総務課までご連絡ください。



障がいがある人もない人も共に支え合える社会へ

・社会の障がい者に対する理解や受入体制への疑問

「7月に神奈川県相模原の障害者施設にて悲しい事件が起こりました。加害者は『障がい者がいなくなればいい』という旨の発言をしていたようです。また昨年11月には茨城県教育委員会の県総合教育会議にて『障がいをもつ子どもの出産を防げるものなら防いだ方がいい』という旨の発言があり、問題となりました。そうした報道によって“障がい者を社会から切り離す”という考え方が大きく取り上げられましたが、そうではなく、本人たちの特性や個性を理解し適切な支援を行えば、きちんと社会で共生していけるはずなんです。」そう語ってくれたのは市内で活動する「特定非営利活動法人ひなた」（以下「ひなた」）の理事長を務める真船一夫さん（以下真船さん）です。

現在の日本では障害者雇用促進法に基づき、「事業所の規模（労働者数）に応じてこれだけ障がい者を雇用しなさい」という法定雇用率が定められています。この率を下回る事業所は納付金を納め、率を上回っている事業所には助成金が支払われるといった、障害者雇用促進のための取り決めがあります。しかし真船さんは、現在の社会の障がい者への理解や受入体制はまだまだ十分とは言えず、こうした納付金や助成金がなければ、多くの事業所は障がい者を積極的に雇用しにくいのではないかと言います。また、仮に雇用しても単純な作業ばかりで、当事者の自立や社会参加、自己実現とは程遠い現実もあるとのことです。「個人の能力に目を向けて、どうしたらその能力を上手に発揮できるか」という視点が、障がい福祉サービス関係の事業所だけでなく、民間の事業所にも広く普及してほしいと語ってくれました。

・障がい者の社会参加を啓発するためにはまず自分から

「ひなた」の運営する事業の1つである「カエルカフェ」（店長白井智科（しらいともか）さん）には、現在三島中学校三年生の大嶋諄（おおしまじゅん）君（染色体の数が多い「ダウン症」という障がいを持っていて、特別支援学級に在籍しています。）が春、夏、冬休みの長期休暇を利用して社会参加の場として定期的に勉強に来ています。きっかけは、三島中学校が行っている職場体験学習「マイチャレンジ」で当時二年生の諄君を受け入れた際、その後も継続して社会参加できる場を提供してほしいと相談があったからだそうです。

接客中の諄君

料理を運ぶ諄君

諄君は食器洗いや掃除などの仕事ではなく、店長の白井さんの指導のもとオーダーを受けたり商品をテーブルに運ぶといった仕事を手伝っており、おなじみのお客様からは顔と名前を憶えてもらっているようで、上手にコミュニケーションをとっています。こうした諄君の様子に対し店長の白井さんは「もちろん、必要な支援をしたつもりでもそれがその場での最良の結果を生むとは限りません。それでも周囲の人々の理解と支援があれば、社会でより多くの役割を果たすことができます。諄君自身も少しずつ社会参加の意義を理解してきているように

上手にオーダーを取れました!!

感じます。」と、日々諄君が成長していることを実感しているようでした。

・障がい者のよりよい社会参加を目指して

真船さんは「助成金があるからなどではなく自発的に障がい者を受け入れる事業所が増え、本来の意味での障がい者雇用が進むこと」「事業所の利益ばかりを追って本人の意思や自立を無視せず、個人の能力や特性を発揮できる環境を整えること、またそのために個人の理解に努めること」を期待しているようです。本人はもちろんのこと、当事者の家族にとっても希望があふれる社会になってほしいとのことでした。

こうした真船さんの姿勢や考え方は地域福祉の推進を担う本会としても見習うべき部分が多く、同じ志を持つ組織としてこれからも協力していきたいと思います。真船さん、諄君、そして障がいをもつ人やその関係者すべての人のさらなる活躍に期待します。

特集2 熊本・大分地震の被災地支援
～益城町災害ボランティアセンターの様子～

4月14日(木)に熊本・大分県にて発生した地震は、九州地方に大きな被害をもたらしました。災害で亡くなられたみなさまのご冥福をお祈りいたしますとともに、被災されたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。

今回の熊本・大分地震が発生してから半年が経過しましたが、いまだ復旧のめどが立たない地域もあり、避難所生活を余儀なくされている住民もいます。そのような状況の中、栃木県社協においても被災地支援として、益城町災害ボランティアセンターへの県内市町社協職員の派遣を行いました。7月24日(日)～30日(土)の1週間、本会からも1名の職員が参加しましたので、その現地の状況を報告します。

災害ボランティアセンターの様子

瓦礫の運搬に使用されるトラック

震災から3カ月が経ち、町の中では倒壊した家屋が見受けられましたが、ボランティア依頼件数も減ってきており、復旧支援から復興支援へ切り替わる時期に入っていました。

手の空いているスタッフは一人暮らし高齢者世帯などのお宅を回り、現地調査をしていました。多くの人が避難所から仮設住宅へ引越し、今後はそこでの生活支援が増えてくるとのことでした。

現在、益城町災害ボランティアセンターは徐々に活動を縮小している段階です。今後は社協本来の地域づくりの観点から地域住民との協働によって、復興に向かって力強く進んでいくことを願います。

ボランティアセンターだより

～　ボランティアサマースクール　～

今年も、夏休み期間中に約300人もの学生の参加のもと『中・高校生ボランティアサマースクール』を開催しました。

このボランティアサマースクールは、≪事前学習≫･≪活動≫･≪事後学習≫の内容を充実させボランティアの理解を深めてもらえるよう実施しています。

≪事前学習≫として、開講式では国際医療福祉大学准教授の大石剛史先生からボランティアについての講義を聞き知識を身につけました。

≪活動≫として、福祉施設におけるボランティア体験や、ボランティア団体による講座に参加し、実際にボランティア活動を体験しました。

≪事後学習≫として各体験でのふりかえりを行いました。

参加者には、自身の気持ちを「体験前の気持ち」、「体験中の気持ち」、「体験後の気持ち」という三段階で記録してもらいました。

ここで、高齢者施設で体験をした高校生Aさんの感想を紹介します。

視覚障がい者との調理交流会

≪体験前≫

【体験前の目標や気持ち】

初めてボランティアをするので、緊張や不安な事もあるけど、積極的に活動していきたい。施設の方や利用者としっかりコミュニケーションを取りたい。

≪体験中≫

【体験中で楽しかったことつらかったこと】

利用者の方たちとコミュニケーションがとれた時はうれしかったし、楽しかった。

≪体験後≫

【体験後の気持ち】

3日間だったので完璧とはいきませんでしたが、1日目よりも2日目、2日目よりも3日目と前日の反省を活かして活動することはできたので良かったです。初日は、大変でしたが3日目には、もっとやりたいという気持ちになりました。

【今回の活動で気づいたこと、わかったこと】

私の力でも必要としてくれる人がたくさんいるということ、何事も自分から積極的に活動することが大切だということです。

高齢者や障がい者は、私が思っているより多くの事を自分ですることができるので、私たちは、少しだけ必要な所をさりげなく助けてあげるだけで良いと気づきました。

【今回の体験を活かし、今後やってみたいこと】

ボランティアをすることの楽しさを体感することができました。今後もボランティア活動に参加したり、困っている人を見かけたら声をかけるなど積極的に地域社会へ参加していきたいです。

参加者は、不安や緊張をしながらも、活動を通して自分の変化や成長が感じられたのではないでしょうか。
この体験で学んだこと、気づいたことを今後の生活に活かしていってください。
若きボランティアの今後の活動に期待しています!!

≪ボランティアを始めたい人、興味がある人は、
ぜひボランティアセンターにお越しください!!≫

那須塩原市社会福祉協議会ボランティアセンター
那須塩原市桜町1-5　いきいきふれあいセンター内
TEL/FAX　0287-73-0073

福祉活動紹介㊲

小地域福祉活Do

―コミュニティ設立20周年！―
～中央地区コミュニティ～

平成9年に住みよい地域づくりを目指して設立した『中央地区コミュニティ運営員会』では、9月4日(日)西那須野公民館において設立20周年を記念した「家族で楽しむ『ふるさとコンサート』」を開催しました。

太夫塚八木節笠踊り保存会のみなさまによる笠踊りによってコンサートの幕が開け、続いて、プロのミュージシャンによる表現力豊かなピアノ演奏と力強い繊細なヴォーカルのコンサートがあり、会場全体が癒しと心地よさに包まれました。また、会場にいる全員で童謡を合唱する時間もあり、会場が世代を越えて一体となりました。

参加者からは「こんな綺麗な踊りや音楽を鑑賞できる機会があってありがたい。」との声が聞かれました。

今回音楽を通じた事業によって、住民同士のつながりがさらに強くなったのではないかと感じました。

今後の中央地区コミュニティの活動に注目したいところです。

この事業には、みなさんからの会費や寄附金などを財源とする「地域福祉活動補助金」が使われています。

輝き人発見

このコーナーでは、地域で活躍する輝き人を紹介します。

―穴沢地区で輝き人発見!!―

黒磯地区老人クラブ連合会　穴沢福寿会　渡辺会長が「ウチのクラブには、とっても若いおばあちゃんがいる」とのことで、穴沢福寿会の“月井　フキ”さん（98歳）をご紹介します。

「月井さん。失礼ですが、お歳は…」と聞くと「98です」と笑顔で答えてくれました。

話を伺ったのは、老人クラブが主催する輪投げの大会の日。月井さんはチームの主力として活躍中。投げる姿は、とっても若いおばあちゃんでした。

普段は、畑で芋やネギ、大根、カボチャなど野菜を作っているそうです。“若さ”のヒケツを聞いてみると「仲間と一緒に輪投げや話をして、若いパワーをもらっているから」とのこと。

確かに話を伺っているあいだも、周りにはたくさんの仲間がいて、あれや、これやと月井さんのことを教えてくれました。　月井さんの周りには、常にたくさんの笑顔であふれていました。

月井さんは、周りの人を和ませ、笑顔にさせる、そんな輝き人でした。

介護なんでも相談

11月11日は「介護の日」です。社会福祉協議会では、介護の日にあわせて介護相談週間として、『介護なんでも相談』を開催します。

問合せ　社会福祉協議会　本所　福祉サービス支援係　☎0287－39－6608

※事前予約の必要はありませんので、お気軽にご相談ください。
また、電話での相談も承ります。

と　こ　ろ	と　　き
健康長寿センター（那須塩原市南郷屋5－163）	11月　8日（火）～11日（金）午前10時～午後3時
いきいきふれあいセンター（桜町1－5）	11月　9日（水）午前10時～午後3時
塩原温泉病院（塩原1333）	11月11日（金）午前10時～午後3時

『見えづらさをサポートします！お役立ち講座』開催!!

見づらい、眩しくて困るなど、見え方でお困りの方の日常生活に役立つ情報や生活用品を集めて紹介します。また、視覚障害者への支援に関する講演会や簡単クッキングの実演、盲導犬や白杖･ガイドヘルプ体験もあります。見えない方、見えにくい方、そのご家族や福祉・教育関係者などどなたでも参加できますので、お気軽にお出かけください。※入場料無料です。

と　き：平成28年10月29日（土）午前10時～午後3時
ところ：健康長寿センター（那須塩原市南郷屋5－163）
出展品：音声パソコン、拡大読書器、デイジー再生機、ルーペ、音声時計、キッチン用品　等
問合せ：社会福祉協議会　本所　生活支援係　☎0287－37－5122

「熊本地震災害義援金」へのご協力ありがとうございます

熊本地震災害義援金は、8月31日時点で815,458円もの義援金が寄せられました。これらの義援金は、日本赤十字社を通じて被災者のみなさまへと届けられます。熊本地震災害義援金は、引き続き平成29年3月31日まで受け付けています。これからも災害義援金の趣旨をご理解の上、みなさまからのご協力よろしくお願いします。

8月31日現在（敬称略、順不同）

名　　前	金　額
匿名	126円
アグリパル塩原会	5,629円
ファインドスポーツクラブ	10,062円
那須塩原市シルバー人材センター	7,097円
本会募金箱（8／30〆）	1,339円

ご協力、
ありがとう
ございます。

誰にでもやさしい地域福祉活動の拠点　福祉協力店

平成28年6月1日～9月30日までに、次の事業所にご登録いただきました。

事業所の名称（敬称略）	協力内容				
	①	②	③	④	⑤
日藤自動車工業有限会社	●	●	●		

取組内容
①社協だより、ボランティア情報誌の設置　②募金箱の設置　③社協が実施する事業等のポスター掲示　④社協が運営する施設の製品販売　⑤その他、地域福祉への協力

赤い羽根共同募金運動が始まりました

運動期間　10月1日(土)～12月31日(土)

～赤い羽根募金運動は、 町の人の「やさしい気持ち」を集める運動です～

【赤い羽根共同募金とは】

赤い羽根共同募金は、市民自らの行動を応援する、「じぶんの町を良くするしくみ」です。つまり、“那須塩原市”を良くする仕組みです。募金は各都道府県の市町村ごとに行われ、災害時などの例外を除き、集まった金額の約70%は集めた地域で使われます。

【主な使い道】

共同募金は、様々な地域の社会課題を解決するための活動や、その活動を行う団体に対して助成されたり、地域の福祉施設等の充実・整備のために使われています。具体的には…

・地域の社会福祉施設の設備や備品等の整備
・地域で活動する社会福祉団体やボランティア団体への助成金
・地域で行われるサロン活動やボランティア活動など、地域福祉推進事業への助成金
・大規模災害の被災地への義援金や、災害等準備金の積立

この他にも、多岐にわたる目的で使用されています。地域ごとの募金の詳しい使い道については、赤い羽根データベース「はねっと」http://hanett.akaihane.or.jp/で調べることができます。

たくさんの「やさしい気持ち」が共同募金を通じて地域の福祉を支えています。

まごころありがとうございます

次の方々からあたたかい寄付をいただきました。

平成28年7月1日～平成28年8月31日寄付分
〔(　)の中は社協合併後、平成17年度からの通算回数、順不同、敬称略〕

福祉基金へ

匿名（4件）		13,285円	栃木県歌謡協会　那須北支部	（12回）	30,000円
泉カラオケ教室	（24回）	10,000円	歌の仲間カラオケ竹の子の会	（53回）	10,000円
永岡久明	（131回）	6,000円	福祉協力店分		20,509円

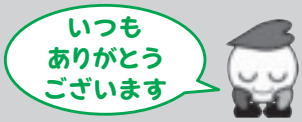
善意銀行へ

ガイアらくらく館黒磯店	（7回）	菓子類1箱
木下岩男	（1回）	タオル114枚
ZAPP黒磯店	（85回）	菓子類14箱
栃木県立那須清峰高等学校家庭クラブ	（1回）	雑巾100枚
髙野康代	（1回）	オムツ4袋
ZAPP西那須野店	（62回）	菓子類6箱
ニラク大田原加治屋店	（132回）	菓子等8箱

交通遺児基金へ

ブリヂストン労働組合	（25回）	50,000円
那須塩原フライングディスク協会	（52回）	1,500円
カラオケあすなろ会	（1回）	25,000円

栃木県立那須清峰高等学校家庭クラブ様



こどもふくしコーナー

おしえて!こころまる

車いすの違い編

私のおばあちゃんが車いすを使うようになったんだけど、車いすにも種類があるの?

車いすの種類について説明するね。写真のように大きく2種類あるんだよ。

車いすには自走式と介助式の2種類があるんだ。自走式は自分で進めるようにハンドリムという取っ手がついていて、大きなタイヤが特徴なんだよ。介助式はタイヤが小さくハンドリムがないから人の手を借りながら進むものだね。利用する人の体の状態や周囲の環境に合わせて使い分けるよ。

私のおばあちゃんの車いすは大きなタイヤだったから自走式なのかもね。この前テレビで見たんだけど、パラリンピックの選手が乗っていた車いすは、おばあちゃんの車いすと同じなのかな?

パラリンピックの選手が乗っている車いすは競技用に作られていて、一般の車いすよりも軽くて丈夫な素材でできているよ。競技種目によってスピードの出やすい車いすや、操作しやすい車いすなどがあるよ。

そうなんだ。使う人や周りの環境に合わせて、いろんな種類があるんだね。今度から気にかけて見てみるね。

車いすを使っていて困っている様子の人がいたら手伝ってあげよう。「自分一人でできるよ」という人もいるから、ちゃんと声をかけて確認してね。

みんなもわからないことや気になることがあったら、僕や社会福祉協議会に連絡したり、自分で調べたりしてみよう!

発行　社会福祉法人 那須塩原市社会福祉協議会
住所　〒329-2705　那須塩原市南郷屋5丁目163番地（健康長寿センター内）
TEL 0287(37)5122　FAX 0287(36)8710
ホームページアドレス http://ns-shakyou.jp/　Eメールアドレス info@ns-shakyou.jp